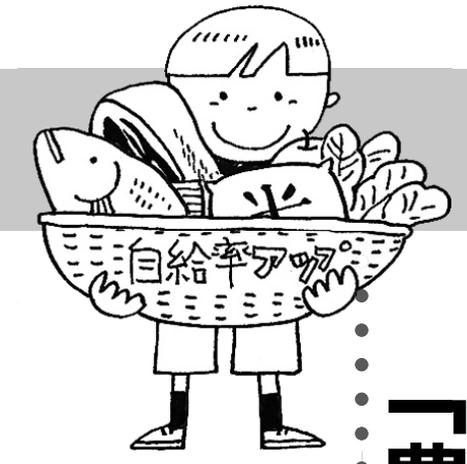


安心して

食料自給率を早期に50%に—— 農業にはげめる農政へ



「農業再生プラン」発表

北関東各県の農業団体と懇談

いま、気候変動の影響、需要の増大、食料品投機などにより、世界的な食料不足、食料高騰の危機にみまわれています。こうしたなか、日本の食料自給率は世界でも異常な三十九%まで低下し、とりわけ深刻な事態となっています。日本共産党は、その打開のため「農業再生プラン」を発表し、北関東各県の農協中央会などを訪問し、懇談。どこでも、農業の深刻な実態が語られ、「再生プラン」への共感と、日本共産党への期待が寄せられています。

自給率向上には価格保障が必要

埼玉県農協中央会 島村義雄常務理事

「世界的食料不足がいわれるなか日本が食べていけるかという問題です。農家の高齢化で五年後、十年後に作り手がなくなってしまうたら日本はどうするのか。政府の対応にもどかしさを感じています」「自給率をあげるために

は麦や大豆の自給率アップが欠かせない。価格保障が必要ですよ」と語りました。また「政治は強い信念で取り組んでほしい。どんなことがあっても農業を保障するという、予算の裏付けがないと誰もついていきません」と語りました。



食料は国産・国消（国内消費）で

栃木・JAかみつが 渋江政雄組合長



「いまの国の制度では大規模農家でさえ経営的にやっていけない」「輸入中国ギョウザの問題をみても、食料は国産・国消（国内消費）でやっていかないとダメだ」「農業がこんなに苦しいのは農業予算が減らされ、コストが上がっているのに価格が下がってきたからだ」「市場原理主義は間違っている。担い手を維持できる政策を進めてほしい」と語りました。

自給率向上が重要課題

JA茨城県中央会 仁平博夫常務理事

「世界人口が増えていくなかで、今後は外国から農産物を輸入するのはむしろ難しくなる」とのべ自給率向上が重要課題だという考えをのべました。

また、成田治彦統括部長は「国民各層の間で農業問題を議論していただければ大変ありがたい」とのべたうえで農家の高齢化と後継者問題、耕作放棄地の増加などに強い危機感を示しました。



『再生プラン』の方向は共感できる

群馬・JA赤堀町 吉田昌夫専務理事

「いま、日本の農業は危機的な状況にある。減反政策の押しつけで、農地が荒れ放題になっている。農業を守ることは、日本の国土を守ることに直結する。また、燃料代や飼料代の値上がりは深刻で、生産費すらまかなえない。このままでは農家の後継者がいなくなる。『農業再生プラン』の方向は共感できる。みんなで議論を深めていきたい」と語りました。

日本共産党の「農業再生プラン」（提案骨子）

内容の詳細は、日本共産党中央委員会のホームページをご覧ください

提言 1

持続可能な農業経営の実現をめざし、価格保障・所得補償制度を抜本的に充実する

(1) 米の需給と価格の安定をはかるために、価格保障「不足払い」制度を創設する

(2) 麦・大豆なども、価格保障と所得補償の組み合わせで増産をつながす

(3) 畜産や野菜・果樹なども手厚い支援で増産をはかる

提言 2

家族経営を維持することも、大規模経営をふくむ担い手育成で農地を保全する

提言 3

関税など国境措置を維持・強化し、「食料主権」を保障する貿易ルールを追求する

提言 4

農業者と消費者の共同を広げて、「食の安全」と地域農業の再生をめざす

安全な
食料を

外国依存の食料・農業政策を転換し

日本の大地から

日本共産党

食料自給率向上に

価格保障・所得補償制度を

紙智子参院議員が政府に対策迫る

を強めるよう、政府に要求しました。

飼料高騰で畜産農家支援を

紙議員は、参



紙智子参院議員は、参院農林水産委員会で、各国が食料・農業政策を自主的に決定する「食料主権」について政府の認識をただし、食料自給率を向上させるため、日本共産党が示した農産物の価格保障政策をとるよう求めました。若林農水相は、「それぞれの国が食料を安定的に供給する責任を果たすため主張する権利を持っている」と表明。紙議員は、「四十%台まで落ち込んだ食料自給率を価格保障制度の導入で七十%台まで引き上げたイギリスの事例を示し、「日本でもやるべきではないか」と迫りました。

また、紙議員は日本共産党の「農業再生プラン」の内容を示し、欧米や米国では農業に手厚い保護策をとって自給率と輸出力を保っている」と指摘し、日本でも農業への保護策



また、酪農家の飼料負担が前年同期に比べ、一トンあたり約七千七百円も増加している問題を取り上げ、生産者への新たな支援制度創設と、配合飼料価格安定制度の抜本的な見直しを求めました。これにたいし若林農水相は経営安定に「総合的な対策を講じていかなければならない」と答弁しました。

農業再生プランに共感と期待

紙智子参院議員が農業・酪農関係者と懇談

紙智子参院議員は、

小池一徳比例予定候補と栃木県那須塩原市の農協関係者、農業経営者、酪農家らと日本共産党の「農業再生プラン」で懇談しました。(写真右上)



方、価格が上がらず大変です。一緒に働いている息子とも他の仕事につく相談をしています」と深刻な状況が話されました。また、「コメと麦を作っている男性は、「昨年はコメ一俵が一万五百円。これでは手間賃もでない。最低一万七千円は必要だ。価格保障の実現に頑張ってもらいたい」と期待を寄せました。紙議員は、「多くの人の意見もと

エピソード

り入れ実現に努力したい」と決意をのべました。また、茨城県では県南農民後援会が、農業と食の安全を語るつどい」を開催。(写真左下)日本共産党の「農業再生プラン」について紙議員が説明。参加者からは、「これからエサも燃料も高くなる。国が責任をもって生産費補償する再生プランの方でないと農業をやめざるをえない」「農水省も食料危機をいいた。社会的に混乱が起きないように農業再生の国民合意を広げる必要がある」「農家の実態は深刻だが、政策方向は分かりやすい。消費者にも話していける」などと語りました。

